



ステキな人が集い、ステキな街になる

柏の葉スタイル News



Vol.32

UDCK ニュースレター 2011年12月号

まちのクラブ活動「ベビママ応援プロジェクト」

ママをひとりにしない!地域の先輩が子育てをサポート



2012年4月に小学校が新設される予定の柏の葉キャンパスシティは、少子化が進む日本では珍しく子育て世代が増加中の街。初めての子どもを出産する夫婦も多く、ただでさえ不安な子育てを住みなれない場所で行うのは大変です。そこで生まれたのが、地域の住民が協力し、子育てママを応援する「ベビママ応援プロジェクト」。「ママはひとりじゃない」を合言葉に、活動は2年目に突入しました。

ママは不安でいっぱい

「うちの子はまだハイハイしないけれど大丈夫かしら」「夜泣きがひどいのはなぜ」初めての子育てに挑戦するママは、いつも不安だらけ。祖父母のいない核家族が一般的になり、身近に頼れる相談役がいらない人も増加しています。

ベビママ応援プロジェクトは、そんな主に3歳未満の子どもを持つママを、地域ぐるみで支援する様々な活動の総称。会員登録は不要で、開催されるプログラムの中から必要なものだけ参加する緩やかな集まりです。柏の葉キャンパスシティで約1000人が参加する住民サークル「まちのクラブ活動」の事務局により運営されています。

プログラムを提供するのは、主に地域のボランティア。子育てを終えた先輩ママや、幼稚園で働いた経験を持つ人、地域貢献に意欲のあるシニアなど、多くの市民が参加しています。

市民からの提案で始動

活動開始は、2010年の7月。柏の葉キャンパス駅周辺でマンション開発が進み、子育て世代が増加しているため、何らかのサポートが必要だと考えていたまちのクラブ活動事務局に、ちょうど市民からの提案が重なりました。

提案したのは、柏市と千葉大学が共催した福祉に関する公開講座がきっかけで結成した市民グループ。講座の成果を生かした地域貢献の一つとして、乳幼児とママを対象に「絵本の読み聞かせと手遊びの広場」を行うことになりました。

内容は、絵本や紙芝居の朗読、童謡を歌いながらの手遊びなど、約1時間のプログラム。最初は1組だった参加者も、

今ではキャンセル待ちが出るほどの人気です。

会の終わりには、必ず参加者の自己紹介と近況報告を行います。ひとりのママが「ようやくプールに入れるようになりました」と報告すると、他の参加者全員から拍手。「子育てはひとりではない」と感じられる瞬間として、特に大切にしている時間です。

立ち上げ当初から参加しているという谷口寛子さんは、「新しい街なので知り合いが少なかったが、ここに参加して交流が広がった。幼稚園の情報など、実用的な情報交換も役立ちます」と、魅力を話してくれました。

【表1】過去のプログラム例

タイトル	内容
クリスマスミニコンサート	柏市の老舗合唱団「かざぐるま」による、乳幼児とママに向けたクリスマスコンサート
ベビー&ママのためのヨガ教室	柏市のヨガ団体「Yoga Do」が教える、赤ちゃんとママと一緒にできるヨガ教室
乳幼児のためのパパママ安全教室	日本赤十字社千葉県支部の協力で、救急車が来るまでの応急処置などを学ぶ

まちのクラブ活動「ベビママ応援プロジェクト」

サポートする側も楽しく

ベビママ応援プロジェクトに参加する市民ボランティアは、現在約20名。その中心は、60歳以上のシニア世代です。

これまで一年以上無償ボランティアによる運営が成り立っているのは、サポートする人も楽しんでいるから。「絵本の読み聞かせと手遊びの広場」で紙芝居を担当する柴野さんは、若いころから定年退職後は「紙芝居おじさん」になりたいと思っていたそう。「紙芝居をすることが生活の楽しみになっている。まだまだ下手だけど、夢がかなった」と笑います。

その他にも、「子どもを見ているだけで元気をもらえる」「子どものために図書館で多くの絵本を見るようになり、自分の世界も広がった」など、参加するボランティ



紙芝居担当の柴野さん。最近、市販品では飽き足らず、自身で絵を描いてしまうこともあるそう。

アは次々にそのやりがい口をします。

昔から夫婦にとって「子はかすがい」と言いますが、高齢社会の活性化にとっても、子どもは欠かせない存在なのかもしれません。

専門講座に注力

事務局が今年から力を入れているのが、子育てや発育に関する専門家を招待しての講座開催です。ボランティアだけでは対応できない専門的な知識も必要だと考え、2011年6月に「助産師による子育て講座」を実施。好評を受け、その後不定期ながらテーマに応じた専門家を招いて講座を開催しています。

11月下旬には、今年最後の講座「イヤイヤ期の乗り越え方」を開催しました。臨床心理士である花澤佳子さんを講師に迎え、約40組の親子が参加。1～2歳で迎える初めての反抗期「イヤイヤ期」の子どもの心理と、「バテない子育ての秘訣」に関する講演に、参加者は熱心に聞き入りました。

子育ての悩みはそれぞれ違うため、講演後は質疑応答が活発に。「子供が頭を壁にガンガンぶつけるのはなぜ?」「ついついヒステリックになってしまうのですが」

「兄弟間の愛情の振り分けが難しい」などの質問に、花澤先生が一つ一つ丁寧に回答。ひとりで悩んでいた不安が解消されていきます。

専門家講座は、今後「歯の発達」などの身体的な内容も加えながら、毎月開催を目標に拡充していく方針です。

ベビママ応援プロジェクトでは、「絵本の読み聞かせと手遊びの広場」を毎月第二・第四月曜日に定期開催するほか、不定期でイベントを実施しています。

ベビママ応援プロジェクトの詳細、問い合わせはこちら

まちのクラブ活動事務局

[WEB]

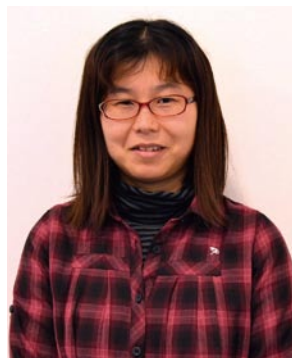
<http://www.machino-club.com/>

[TEL]04-7137-2221



イヤイヤ期は、子どもに自我が芽生えだした合図。気づかなければ困惑してしまうことも、専門家から話を聞くことで安心できる。

キーパーソン・トーク



齋藤 香代子 氏
まちのクラブ活動事務局
NPO支援センターちば

ベビママ応援プロジェクトの活動理念は、ママを寂くさせないこと。地域には様々な経験や知識を持つ人生の先輩が大勢います。その人たちとママたちを結びつけることで、「ひとりじゃない」と感じてもらうことが大切です。「ベビママ応援」と銘打っていますが、もちろんパパの参加も歓迎しています。

一年間続けてきた大きな成果は、ボランティアスタッフだけで運営が回り出していること。事務局はあくまで裏方で、主役は市民です。今後も「こんな講座が欲しい、やりたい」という市民からの提案や、ボランティアで参加してくれる人を大募集しています。

事務局では、プロジェクトの持続的な運営体制を作ることに注力しています。2012年に向けて検討しているのは、子育て中のママのサポートを専

門とするNPOなど、外部団体との連携です。

連携の一番の目的は、プロジェクトに対して企業や地域の商店などバックアップしてくれるスポンサーを集めることです。今年から始めた専門家講座は大好評なのですが、開催には費用がかかります。スポンサーが集まれば、費用の心配が減り、講座の回数も質も拡充することができます。

また、ママにとって子育て以外に不安なのは、「実社会から離れてしまう」という意識。ママである事を生かした仕事やボランティアの紹介など、無理のない範囲で社会との接点を保つサポートもしていきたいと考えています。

子育てでは、子どもに対して親以外にも複数の大人が関わることが大切だと言われています。この活動を通じて、柏の葉キャンパスシティを地域全体で子どもを育てる雰囲気のある街にしていきたいです。

□編集後記□

早いもので、2011年は今号で最後の発行となります。日本にとって本当に大きな変化があった2011年。このベビーたちが元気に成長するためにも、柏の葉スタイルNewsでは2012年も明るく活発な取り組みを紹介していきます!(蛭川)

●このニュースレターに関するお問い合わせ先

柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) 広報担当 小林、蛭川、丸浜
〒277-0871 千葉県柏市若葉184-1柏の葉キャンパス149街区13
TEL 04-7140-9686 FAX 04-7140-9688
E-MAIL ma-kobayashi@udck.jp WEB <http://www.udck.jp>

柏の葉
アーバン
デザイン
センター

UDCK